

水稻



水稻営農情報



水稻

新木 真一
農畜産課 課長
0969-22-1105

◎障害の回避は水管理で

登熟を向上させるためには、恨の老化を防ぎ、刈り取り直前まで活力を維持することが大切です。そのため、間断灌水による水管理を励行しましょう。

収穫前の早めの落水は、乳白・心白・腹白米・粒張り不足や胴割れ米の原因となり品質や食味を落とします。田んぼの排水路・排水溝を整備して、稲

刈りに支障のない限り落水期は遅くまで延ばして下さい。落水させたまま登熟期間を過ぎさせると、間断灌水を行った水田に比べて乳白・心白・腹白米の発生率が大幅にアップすると言うデータがありますので注意して下さい。高温の期間が続くようであれば、水の掛け流しなどを行い、稲体を冷やして乳白・心白・腹白米の発性を抑えましょう。

●台風対策

登熟期間に台風が接近する場合は、不稔・倒伏防止策として風が強くなる前に深水管理を行って下さい。

◎適期刈り取りの励行について

一穂の籾の85%程度が黄色く熟れる頃が収穫最適期です。なお、茎や葉が緑色であっても籾は黄色くなっていることが多いので注意が必要です。収穫時期の目安は、出穂期(圃場の40~50%が出穂した日)から30日程度(積算温度良で850℃前後)が刈り取り適期となります。自分の圃場の出穂期を確認

しましょう。

◎収穫・乾燥・調整の留意点

①コンバイン収穫

- ・刈り取り作業は、「つゆ」がなくなった頃から始めるのがもっとも効率が良く、しかも傷籾や穂切れ・枝こう付き籾の発生も少なくなります。
- ・こぎ胴の回転数が高すぎると傷籾の発生が多くなりますので、規定の回転数を守りましょう。
- ・収穫した生籾は、2時間以内に通風乾燥を行って下さい。

②掛け干し

- 高温の時期ですので乾燥に注意しましょう。
- ・期間は3~4日とし適正玄米水分15~16%で早めに脱穀しましょう。
- ・傘稲は胴割れ米が多くなりますので、可能な限り自家飯米用として別処理をして下さい。

③乾燥・調整について

- うまい米づくりの総仕上げは乾燥調整です。
- ・乾燥は玄米仕上げ水分15%を目標とします。過乾燥は品質食味を落としますので注意して下さい。
- ・乾燥にあたっては高温乾燥にならないよう機種にあった温度設定で行いましょう。
- ・乾燥直後は籾水分のばらつきが大きく常温まで穀温を下げないと籾摺作業で肌ずれが発生しますので注意して下さい。
- ・入念な調整作業を行い、整粒歩合(80%)を高めましょう。

畜産



子牛下痢症と予防について



畜産

平山 静利
下島営農指導センター
080-1729-1638

1. 畜舎、特に床の清潔に保つ。→細菌、ウイルス、寄生虫の繁殖防止。乳房が清潔。
 2. 分娩前後の母牛の給与飼料に注意する。
 - ・サイレージ、濃厚飼料の多給は避ける。
 - ・飼料の内容は急に変えない。
 - ・硝酸態を多く含む粗飼料の多給は避ける。
 3. 分娩室内あるいは子牛牛舎の敷き料に注意する。
 - ・十分な量の敷き料を。ワラが良い。細かく切断しない。できれば長いまま。→床の通気が良くなり乾燥する。保温性が良くなります。下痢を発見しやすい。
 - ・細断したワラ、鋸屑、もみ殻では下痢の発見が遅れます。寄生虫の感染源となる事が多い。
 4. 分娩直後に母牛の乳房を清潔な蒸しタオルで拭く。
 5. 分娩直後に子牛の瞬帯を消毒。
 6. 畜舎の環境整備：子牛の高さになってみる。
 7. 夏場の通風：外気の取り入れ畜舎内の空気を外へ。床の乾燥。
 8. 冬場の保温：こたつ、保温箱、投光器の利用。火事の注意！
 9. 糞尿堆肥の処理→有毒ガスの発生。
 10. 畜舎の構造：理路整然にする。天井は高く。
 7. 急激な運動は避ける。
 8. 定期的に畜舎消毒と駆虫薬を投与。
 9. 母牛以外の乳を飲ませない。(他の母牛)
 10. 早い時期より良質の良い乾燥を子牛が食べやすい場所に置いておく。乾燥の長さは口の幅より長くします。
- ※駆虫薬投与による下痢予防
アイボメック：母牛に分娩予定10日前までに駆虫薬投与。(使用上をよく読んだ上で。)
効果：下痢の再発減少。増体が良くなります。

野菜



甘長とうがらし今後の管理



野菜

山下 和樹
下島営農指導センター
090-5028-9494

追肥・・・収穫始めから行う。

※アサヒエース 10a当たり14~20kg
(10~14日の目安)
又は、液肥を500倍かん水する。

かん水・・・水分不足は品質に影響が出る為、こまめにかん水を行う。

※収穫期に水分が不足すると、果実肥大が悪くなったり、曲がり果の原因になる。

整枝・・・主枝の4本は必ず残す。生育が旺盛になるにつれて中が込み合う場合は採光を考え間引き・摘芯する。

※日陰で果実が白くなりやすくなるため、光を十分当てる。

摘果・・・曲がり果等の不良果は早目に除去する。

※樹勢低下になりやすい。

ネット張り・・・2段目は1段目より40~50cmの高さにする。

※1段目は地面から70cmぐらいの高さで張り、出来るだけ主枝4本を広げる。

斑点病対策・・・Zボルドーを500倍で散布する。
(混用はしない・果実の汚れに注意)

害虫対策

スタークル顆粒水溶剤	2000倍	前日	2回	スリップス
ファーム乳剤	2000倍	7日	2回	オオタバコガ
モスピラン水溶剤	8000倍	7日	2回	アブラムシ

尻腐れ対策・・・カルシウム剤の散布を行う。
(ジューシーカル・スイカル・エキカル等)を500~1000倍で散布する。

白絹病対策・・・リゾレックス水和剤 1000倍 前日まで 2回

果樹



6月の柑橘園管理



果樹

木蜜 栄次
上島営農指導センター
080-1759-0088

6月は梅雨時期となり、病気の発生が多い時期となります。今回展着剤で入れておりますアピオンEは、ペンコゼブ水和剤の付着性を高め黒点病の防除効果を高めます。雨の多いこの時期には必ず混用し、商品性の高いみかんをつくりましょう！

1. 病害虫防除

項目	時期	対象病害虫	農薬名	希釈倍数	備考
温州 中晩柑	上旬 ~下旬	ミカンハダニ	ハーベストオイル97%	150倍	混用散布
		カイガラムシ類、 ゴマダラカミキリ	スプラサイド 乳剤40	1,500倍	
	中旬 ~下旬	黒点病	ペンコゼブ 水和剤	600倍	混用散布
ミカンサビダニ、 カンザワハダニ		サンマイト 水和剤	3,000倍		
		展着剤	アピオンE	1,000倍	

※ハーベストオイル97%については、生理落果終了後に散布を行いましょ！

2. 葉面散布の実施

新梢の緑化の遅れは、生理落果の助長を招きます。緑化が遅れている園では、チッ素+マグネシウムの葉面散布で緑化促進を図りましょう。

目的	資材名	希釈倍数	備考
緑化促進	葉面マグ	200倍	混用散布
	アミノジューシーN14	500倍	
新梢充実	ジューシーカル	1,000倍	テコポン等

3. 施肥の実施

栽培タイプ	施用時期	品種名	肥料名	10a当たり 施用数
通常タイプ	6月上旬	極早生・早生	熊本果樹肥料	2袋
		中生・普通温州 ボンカン・清見	10-7-4 又はひのくに 果樹9-3-3	
		甘夏・河内晩柑 パール柑	熊本テコポン 8-3-3	3袋
省力化タイプ	6月上旬	ボンカン	アグリロング 28号	4袋

4. 粗摘果の実施

早期に摘果を行う事により、残った果実の肥大が促進されます。基本的には生理落果終了後から行いますが、極早生温州など収穫までの日数が短い品種では、2次落果期頃から摘果を行う事により肥大が促進されます。特に小玉の多い「肥のあかり」を中心に内成りや天成り果を早期に除去して下さい。

5. タイベック被覆の実施(温州みかんのみ)

早期出荷や品質向上の為、タイベック被覆を実施しましょう。

品種	被覆時期
肥のあかり・豊福・肥のさやか	6月下旬~7月上旬
肥のあけほの・早生	7月中旬~8月中旬